

岐阜市少年科学センター時代を振り返る

少年科学センター 施設概要

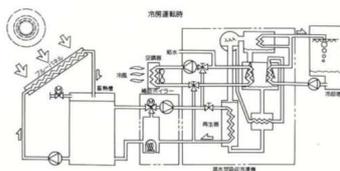


「岐阜市の教育」より

ソーラーシステム集熱版

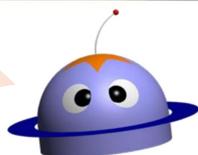


冷暖房システム図



空調面積	188.95㎡ (事務室・会議室・研究室)
集熱版 (ブルーパネル)	152.8㎡ (90枚) (屋上)
冷凍機 (冷媒:フロンR22)	10RT
補助熱源	50,000kcal/h
蓄熱水箱	6.4m ³
設備費	16,800,000円

少年科学センターの屋上には、当時ではまだ珍しい太陽熱の吸収装置（ソーラー集熱パネル）が設置され、これで得られる温水を熱源として、館内の冷暖房に使用しているよ。
今では、太陽光発電は再生可能エネルギーの一つとして一般的だけだね。



どこがちがう？

下の写真は、岐阜市少年科学センターと岐阜市科学館の外観です。どこがちがうかな？



岐阜市少年科学センター



現在の岐阜市科学館

児童科学館は、のべ約437㎡の建物で、相手狭になっていたね。
少年科学センターは、のべ約2,449㎡だから、5倍以上の大きさになったね。
そのあと、プラネタリウム等や本館の東側を増築して、現在は、約4,559㎡だから、さらに倍くらいになっているね。



少年科学センターが建設される前

どちらの写真も宇佐付近の写真です。
右は昭和56年3月の整備中の頃の写真、下は平成7年1月の整備後の写真です。



岐阜市提供



岐阜市提供

昭和55年に今の場所（本荘）に建設された少年科学センター。実は、当初は梅林公園内が建設予定地だったの。

少年科学センターの前は、三菱レーヨン、東洋紡の紡績工場だったよ。
隣のハツ草公園や岐阜南工業高等学校、県美術館や図書館などもそうだね。
岐阜市内は、昔多くの繊維関係の工場が立っていたね。



事業や展示

岐阜市少年少女発明クラブ



岐阜市の教育より



少年少女発明クラブは、発明協会創立70周年の記念事業の一環として、昭和49年にスタートした事業です。全国47都道府県に200ヶ所以上、約11,000名の子もたちと約2,800名の指導員が活動しています（令和7年現在）。

岐阜県発明協会の下に15の支会と5つの少年少女発明クラブ（岐阜市・大垣市・多治見市・各務原市・瑞穂市）があり、岐阜市少年少女発明クラブは県内で1番早く昭和54年に発足しました。4月の科学技術週間には今でも岐阜市少年少女発明クラブの作品展が開かれています。

リカちゃん・ケンちゃん

リカちゃんはスタンプロボットで、観覧券を差し込むと、「コンニチハ、ワタシの名前はリカです！・・・」とお客さんに話しかけながら、記念スタンプを押し、胸のモニターで案内表示をしたり、今日の天気や時刻を教えてくださいました。
ケンちゃんはジャンケンロボットで、「ぼくとジャンケンゲームをしましょう！」とお客さんに話しかけます。ジャンケンポンの掛け声でお客さんは手元のコントローラーのボタンを押して、グー・チョキ・パーを選びます。同時にケンちゃんも胸にグー・チョキ・パーを表示して、その下に参加者との勝ち負けを表示するようになっていました。また、コントローラーのレバーで自由に動かすこともできました。
昭和55年から、ケンちゃんは平成14年まで、リカちゃんは平成25年まで皆さんをお迎えしていました！

